

魚の命に感謝を込めて魚霊祭開催

5月22日、出の山公園で魚霊祭（主催：市観光協会）が行われました。淡水魚水族館や県水産試験場、飲食業などで飼育やエサ、料理として関わる多くの魚の命に対する感謝と鎮魂のため毎年開催。今年は感染症防止のため規模を縮小して開催されました。



春の叙勲で橋口さんが瑞宝単光章受章

5月27日、令和2年春の叙勲で橋口正一郎さんが瑞宝単光章を受章し、宮原市長から伝達が行われました。橋口さんは市消防団第1分団第1部に所属し、40年在団。副団長を務め、団員の指導育成や、地域防災のために尽力されました。



地婦連が表敬訪問し市長へ花束贈呈

6月2日、市地域婦人連絡協議会が「父の日」にあわせて、平成14年から続けている表敬活動。同会の上原裕子会長が「コロナで大変ですがお仕事がんばってください」とのエールとともに、宮原市長と中屋敷教育長へ花束を贈呈しました。



安心して利用できるよう水道点検

6月5日、小林地区管工事協同組合と野尻町管水道工事業協同組合が、市内小中学校の給水設備の点検・修繕を行いました。全国水道週間にあわせたボランティア活動で、組合加入の水道事業者が校内給水設備を一つひとつ丁寧に点検・修繕しました。



参加したのは同校の1・2年生。2年生は年末の発表に向けて、これから地域の魅力や課題について研究を進めます

自分たちが住む地域を知る 小林高校で「バーチャル市役所」

6月10日、小林高校生が地域の現状や課題について知る「バーチャル市役所」が行われました。生徒が将来を切り開く力を伸ばすことを目的とした「総合的な探求の時間」の一環として実施するもので、市役所13課の職員が市の現状や課題、取り組みについて講演。生徒はメモや質問をしながら講演を聞いていました。

思いやりの心と個性を大切に！ 卒園生が後輩園児にエールの寄贈

6月16日、東方保育園の園児や職員に1991年卒園生一同から、手作りのランチョンマットや巾着袋などが寄贈されました。地元への恩返しと後輩へのエールが目的。卒園生代表で県外在住の青山麻衣さんは「新型コロナで大変な今こそ、子どもたちには友達への思いやりの心と個性を大切にしたいと思います」と話していました。



寄贈品には卒園生たちで考えた手書きの応援メッセージカードも添えられ、受け取った園児からは「かわいい！」と歓声があがりました

デジタルを超えて味わう体験 食の熱中オンライン第1弾開催

6月7日、(一社)熱中こばやし「食の熱中オンライン」を開催しました。市内で生産された食材を事前購入した参加者と食材の生産者が、インターネット上で食材の魅力やおいしい食べ方などを共有できるイベント。自宅にいながら小林の魅力を体験できる初の取り組みで、全国から40人が参加しました。



第1回目の講師を務めたダイワファームの大窪和利さんは「初めての体験で苦労もあったが全国の参加者と交流できて良かった」と話していました

(株)クリーン・アクア・ビバレッジ が市に100万円を寄付

6月8日、ミネラルウォーターの販売を行う(株)クリーン・アクア・ビバレッジ（本坊修代表取締役会長）が市に100万円を寄付しました。贈呈式で本坊会長は「立ち上げの時からここまで成長できたのも市民のみなさんのおかげ。綺麗で美味しい水が日本全国で飲まれていることを嬉しく、そして誇りに思います」と話していました。



(株)クリーン・アクア・ビバレッジからは2015年から寄付をいただいております。今年で6回目。水源保護活動などに活用されています



市内小中学校で希望のあった8校にポピーやキンギョソウの切り花、約1200本が贈られました

「花の駅 生駒高原」が幸ヶ丘小学校 にポピーの切り花などを贈呈

5月22日、宮交ショッピングアンドレストラン(株)「花の駅 生駒高原」が市内小中学校へポピーなどの切り花を寄贈し、幸ヶ丘小学校で贈呈式が行われました。感染症拡大防止のため休業した同社が、地域の人に花を楽しんでもらいたいとの思いで寄贈。同小6年池田太成さんは「花がとてもきれい。家で大切に飾ります。」と感想を述べました。



山之上代表は「今後も設備投資をすすめて樹脂精密加工業界世界一を目指す。地元の方が誇れる会社になりたい」と話していました

(株)ミヤザキと企業立地協定 5年間で地元から70人を雇用

6月2日、合成樹脂加工製品の製造を行う(株)ミヤザキ（山之上道廣代表取締役）九州第6工場の新設に伴う立地調印式が市議会の坂下春則議長、県企業立地推進局の中嶋亮局長立ち会いのもと開催されました。第6工場は来年3月には操業開始予定。5年間で70人の雇用を見込み、地元経済活性化の弾みとなることを期待されます。